

子どもが主体的に動くための指導

1 はじめに

お別れ集会がととてもすばらしかったことから、子どもが主体的に動くために、どのような指導をしてきたか、担任に尋ねてみました。

お別れ集会の様子は、「〇〇っ子だより No.27」を参照してください。

2 5年生担任団に聞く

お別れ集会は、学校全体が動く行事で、5年生がはじめて企画から運営まで、準備から後片付けまでを任される行事です。5年生の担任団に聞きました。

○何が課題でどういう道筋をたどると解決できるのかという見通しが必要である。見通しが立てば、自分たちから動き出す。

○選択させる。自分で決断させる。

1から10まで考えるのが難しいときは、選択肢をたくさん与えて、決めさせる。

○毎日の授業や教育活動で、こういったことを繰り返し行う。

その他、いろいろ話を聞きましたが、結局、まとめられたのは、上記の内容でした。

3 4年生の担任団に聞く

5年生になってからの1年間で主体的に動けるようになるとは考えにくい。4年生からの積み上げがあるはず。4年生の担任団に聞いてみました。

①ゴールを示す。 教師から示す場合もあれば、話し合いで決める場合もある。

例えば、みんなで劇をつくる。いくつかの場面で構成する。

②全体をいくつかのユニットに分ける。ユニットごとのゴールを示す。

例えば、構成されている場面ごとに分担を行う。

③ゴールに行くまでのいくつかのユニットに分ける。ユニットごとのゴールを示す。

例えば、練習期間、当日の期日を確認し、今日は何をどこまでするかを班で決める。

④全員が①②③を理解する。

○ ゴール、ユニットの分け方、ユニットごとのゴールは、その内容の難しさや、子どもたちの発達段階、及び、実態に応じて、教師が示したり、教師が選択肢を与えたり、子どもたちに任せたりする。

高学年では子どもたちに任せることが多くなり、中学年では、選択肢を与えることが多い。

○練習日ごとに各ユニットが今日は何をするかを全員で共通理解を図る。

○全体でも部分でも、教師からの「これをしよう」を止める。

その他、いろいろ話を聞きましたが、結局、まとめられたのは、上記の内容でした。

4 共通することは

「見通し」、「自分たちで決める」、「選択肢」がキーワードでした。

〇〇っ子だより

2019.3.6
〇〇小学校
No. 27

それぞれの思いや決意が良く伝わったお別れ集会でした。

2月26日(火)にお別れ集会が開催されました。お別れ集会は、在校生がこれまでお世話になった6年生に、心からありがとうございましたというお礼の気持ちを表す会であり、卒業していく6年生は、「私たちが卒業した後をしっかり頼みます。卒業する私たち6年生は、〇〇小学校の卒業生として立派な中学生になります。」と決意する会でもあります。これを受けて5年生が、「6年生が受け継いできた伝統や、新たに築いてくれたことをしっかり引き継ぎいでいきます。最高学年としてがんばります。」と決意を述べる会でもあります。本集会の中に「機関車引継ぎ式」があります。まさに〇〇小学校のけん引役が6年生から5年生に渡される式です。

この集会は、**5年生**が企画から運営まですべてを任されており、よく工夫されていました。今年は、各学年の出し物の後に感想を周りと述べ合う時間がとってありました。感想を述べ合う間、数人の係がその場に立ち会い、その出し物のねらいや見どころについての感想を拾い、全体に伝える役目を果たしていました。そのために、それぞれの出し物の見どころや、何を伝えようとしたかを事前に取材していたということでした。今までにない、そして、たいへん高度な取り組みだと思いました。出し物と出し物の間にも工夫がありました。最初は、全員によるリズム打ちで「出し物の始めと終わりにはこのように大きな拍手をお願いします。」とまとめてありました。1年生の出し物の前には、1年生からのアンケートをもとにしたゲームでした。1年生にとっての6年生は「遊んでくれる、手伝ってくれる、かっこよく、かわいい6年生」だったようです。学校あるあるゲームも楽しかったです。最後のあるあるは「友だち」でした。クイズもありました。卒業生の人数や〇〇中学校での学校行事など、6年生に関係するものばかりでした。終盤に入ると疲れてくることに心を配り、全員が立って右隣の人、左隣の人をたたくという身体や気分をほぐす運動もありました。出し物と出し物の間は、短い時間でしたが、それぞれによく工夫されている事に加え、全体構成もすばらしかったです。

最初の出し物は**2年生**でした。国語科で勉強した「スイミー」のストーリーを歌とセリフで表現していました。声がよくそろっており、とても大きな声で堂々とした演技でした。オープニングにふさわしいと感じました。

次は**1年生**でした。「〇〇〇48」は、〇〇っ子ラリーやなかよし班活動での遊びなど6年生との思い出や、6年生への感謝の気持ちを歌詞にした「恋するフォーチュンクッキー」の替え歌をかわいい振り付けとともに届けました。2年生より人数が少ないにもかかわらず、それに負けないくらい元気よく歌いました。会場の2年生からは「振り付けが良かった。」と感想が出されました。

3番目は**幼稚園児**です。「シンコペーティッド クロック」の打楽器演奏の後、「世界が一つになるまで」「ドキドキドン1年生」を歌いました。11人という本当に少ない人数でしたが、一人ひとりが1年生や2年生に負けないくらい大きな声を出して歌っていたところがすばらしかったです。

次は**3年生**です。6年間の思い出やエピソードを劇にして感謝の気持ちを表しました。1年生はひらがな、「何て読むのかな?」「お」から始まり、…「め」「で」「と」「う」。最後は声をそろえて「おめでとう」。2年生は野菜作り、3年生は習字、4年生はローマ字、5年生は音楽の発声練習、6年生は運動会の練習から、すべて、「お」「め」「で」「と」「う」「おめでとう」と表現しました。仕草がコミカルで面白かったです。歌は、「365日の紙飛行機」でした。「その距離を競うより、どう飛んだか、どこを飛んだか」の歌詞のように、これからの中学校生活での頑張りを応援する歌を届けました。

4年生は、6年生が頑張っていたところを劇で表現しました。自分たち4年生が社会見学で学校を離れたとき、6年生が4年生の担当箇所を掃除してくれていたことなどを捉え、コミカルな仕草と共に「6年生はかっこいい」「6年生が陰で支えてくれていた」「6年生のおかげ」と言葉を送りました。「私たちも同じように頑張りたい」という決意表明もありました。歌は、「大切なもの」を二部合唱で届けました。そろった大きな声、すてきなハーモニー。4年生で、こんなに歌えるのかと感心させられました。

5年生は、劇「緑の馬」でした。劇の中には5年生がケガをしたとき、6年生が保健室に連れて行ってくれたというエピソードや、「私たちも6年生のように、全校を一つにまとめられる6年生になります。」という決意が盛り込まれていました。一人ひとりのセリフが大きな声で堂々としたものでした。

「緑の馬」はその内容が難しく深いものです。5年生はよ **【裏面に続く】**

く演じきったと感心しました。後日、担任団から、劇の内容の選定も劇の係が行ったことや、その係から「緑の馬」を読んでくれることが宿題に何度も出されたことなどを聞き、5年生の成長を感じました。

6年生は、「USA」・「今日から俺は」を踊りました。踊りが苦手な子もいるなか、在校生への感謝の気持ちを伝えようと、楽しく、格好良く、切れのあるダンスを披露してくれました。ステージからフロアに降り、観客の目の前で踊ったのも迫力があり圧巻でした。

教職員も「先生からの贈り物」として、星野源の「ドラえもん」を合奏しました。先生方の思いも伝わったと思います。

本集会には、障がいのある方の就労支援施設「〇〇〇」さんを福祉環境委員会が中心となって招待しています。「〇〇〇」さんからも、お祝いの言葉をいただきました。「〇〇〇」さんには観劇の時にも来ていただいています。

機関車引継ぎ式では、6年生から5年生に、「6年生は学校の顔です。一生懸命に頑張ってほしい。みんなを引っばって行ってほしい。」という言葉がありました。これを受けて、5年生からは「人権集会で堂々と発表する6年生の姿から、勇気を出してつながっていきます。学校のいいところを引き継いでいきます。みんなをリードしていきます。」という決意と共に、「中学生になったら、勉強に部活に頑張ってください。」とエールが送られました。

最後に「**6年生からのお別れの言葉**」がありました。お別れ集会のお礼に加え、「卒業まであとわずかですが、何か困ったことがあったら言ってください。」と最後までやさしく、そして、今の6年生らしい言葉で締めくくられました。

あっという間に2時間が過ぎました。感動的で充実した素敵なお別れ集会となりました。記載の通り、子どもたちは6年生への感謝の気持ちをいっぱい表現していました。それは、6年生からいろいろお世話になってきたという実感があったからだと思います。下級生に優しく接する姿、見えないところでも学校のために一生懸命に取り組んでいる姿、人権集会で自分のことを堂々と発表する姿を、下の学年の子たちは「かっこいい」と言っていました。そんな6年生にあこがれ「自分も6年生のようになりたい」とも言っていました。6年生もおそらくやりきったという達成感や、人の役に立っている、周りから感謝されているという自己有用感が高まっているのではないのでしょうか。継続して取り組んでいる上の学年が下の学年のお世話をするという“なかよし班活動”の成果がここにも現れているのだと思います。

5年生が主体的に動いていた

お別れ集会は、学校全体が動く行事で、5年生がはじめて企画から運営まで、準備から後片付けまでを任される行事です。今回のお別れ集会の特徴は5年生の子どもたちが、本当に主体的に動いていたということです。

後片付けの様子を見ていました。「体育館のシートを片付けるので、手の空いている人、手伝って～」と全体に聞こえるように声を上げる子がいました。この子は、次に片付けるべきものはシートであると気づいたのです。それを聞いた数人が、手にしていたパイプ椅子を近くで同じ片付けをしていた子にお願いし、走ってシートのところへ駆け寄ったのです。やがて、シートを片付ける人数が増えていきました。そもそも、片付けの指示を教師はしていなかったようです。担任が「片付けの指示や体育館の床掃除を誰が指示したの？」と全体に問うている場面がありました。お別れ集会が終わったから、みんなで片付け始めたのです。教師の指示で片付け始めたのではなく、自分たちの意思で片付け始めたのです。これは5年生が主体的に動いていた姿の一例です。

主体的に動けるようになるには、そのようになるための指導が必要です。担任が、ある係に向かって、「君は片付けをしてはいけません。もっと全体を見ていなさい。」という指示を出していました。全体を見て、できていないところや、困っているところを見つけて、指示を出しなさいという意味が込められています。子どもたちが主体的に動き出すように指導している一場面を見たような感じがしました。5年生担任団からは、折に触れ、『「主体的で深い学び」ができるように、いつも考えて指導しています。』という話を聞いています。こういった積み上げが、主体的に動く姿になって現れるのだと思います。

今回のお別れ集会では、歌やセリフなど演技をする子どもの声が、どの学年もとても大きかったということも特徴の一つです。学級でのなかまづくり、教師との信頼関係ができているからこそ、できたことです。もちろん、子どもたちの頑張りがあったことは言うまでもありません。このことは、お別れ集会のための練習の成果ということもありますが、一年間の取り組みの成果がここに現れているのだと考えます。教師はよく指導し、子どもたちはそれによく応えました。1年間の様々な取り組みで、子どもと子どもの関係、教師と子どもの関係ができてきたのです。それは、これまで保護者の皆様が、本校の教育活動に対してご理解とご協力をしてくださったからこそであると、深く感謝しております。